

2010 年度第 9 回執行理事会議事録

期 日：2011 年 2 月 12 日（土） 13:00～18:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 久田副会長 渡部副会長 藤本常務理事 井龍 小嶋 石渡 坂口
高木 内藤 中井 藤林 向山 各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：齋藤副常務理事 西（→ 井龍）平田 星 山口

* 定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 名，委任状 4 名，合計 名の出席により執行理事会開催は成立。

* 前回議事録の承認

I 審議事項（関連する報告事項と合わせて説明）

1. 連携事業推進委員会について

12 月の理事会で決めた方向で委員会を立ち上げ，手続きなどの整備を進めている。

2. JNES の評価部会（仮称）の設置及び委員候補者の選出

佐藤比呂志会員、山路 敦会員、品田 正一会員、伊藤谷生会員、小嶋 智会員、井龍康文会員、関 陽児会員

3. 連携事業の推進にあたって踏まえるべき組織規範等

倫理綱領に加えて，それを実現するうえでのもう少し細かい行動規範のようなものを作成する。キーワードとして，透明性・説明責任・公益性・中立公正など。

4. 短報の廃止と速報の新設について（小嶋理事）

「短報」と「論説」の相違が事実上ないことから，地質学雑誌の「短報」というジャンルを廃止するとともに，新たに研究のインパクト性を重視した「速報」というジャンルの新設が編集委員会から提案された。「短報」の廃止については執行理事会として了承したが，「速報」の新設については執行理事からも異論が出され編集委員会内での再検討を要請した。

なお，短報の廃止に伴い，「小藤賞」についても賞の性格の変更を検討することとした。（→ 審議事項 8 項 2）を参照）

5. Island Arc に連合の名称を協賛団体として掲載する件に関して（井龍理事）

連合の名称は入れるが，ロゴはいれないという方向で調整を進めることとした。

6. 新規出版企画の提案（高木理事）

1) ジオパーク支援委員会から，日本列島の地質や地史を簡潔にまとめた小冊子の要望が高いことを受け，地質学会の企画出版物として編集体制から検討することとした。英文版も可能なら同時に進める。

2) 構造地質部会として，断層アトラスの出版を計画中との報告があり，来年度事業として取り組むこととなった。

7. 電子出版について（坂口理事）

12 月の理事会で承認された電子書籍出版を行うための概要や出版のフロー，フォーマット，販売方法などについて，検討案が示され，基本的に了承した。

8. その他

1) 林原グループの古生物学研究に関する要望

林原グループの経営破綻によって同グループ林原生物化学研究所の古生物学研究への影響が懸念されている。林原グループの関係者に向けて、生物化学研究所の研究を高く評価するとともに、今後の整理において人的資源や標本、資試料などの扱いについては、学術的評価を重視し、関係国等にも配慮するよう要望することとした。

2) 地質学会の表彰について以下の点の改正を行うこととした。

・地質学会運営規則の改正

＊「小藤賞」は、その表彰対象を地質学雑誌掲載の短報に限らず、会員による、重要な発見や独創的な発想を含むすべての論文を対象とする。また、賞の名称は「小藤賞」を「小藤文次郎賞」と変更する

＊日本地質学会表彰の対象を非会員だけではなく、会員も表彰対象とする。

・各賞選考規則も12月の理事会の議論を踏まえて改正を検討する。

3) 2011年度総会会場は総評会館（お茶の水）とすることを決めた。

・開催時間 14時～15時半

・議案

・総会終了後 新年度第1回目の理事会を開催予定

4) ジオパーク支援委員として推薦：澤口 隆会員

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援その他依頼・要請等>

1) 科学教育研究協議会 第58回全国研究大会（於 宇都宮大学、8/5-7）の後援依頼
→例年通り承諾

<その他>

1) 地球化学研究協会より、学術賞「三宅賞」、「奨励賞」候補者募集案内（8/31必着）
→ HP、News等に掲載（学会への申請は6/30）

2) 原子力総合シンポジウム（共催、5/25）の開催案 → HPのリンク等で対応

3) 朝永振一郎記念第5回「科学の芽」賞実施報告：応募数1375件（個人1323、団体52）
受賞件数42件（小中高合わせて、個人36、団体6）、その他奨励賞、努力賞、学校奨励賞は115件

4) 日本学術振興会「育志賞」受賞者決定、地球化学系の受賞者はなし。同じく「日本学術振興会賞」受賞者決定、25名中、地球科学系1名。

<会員の動静>

1) 今月の入会者

正会員（4名）野口幸夫、加藤久美、星 康彦、小城祐樹

2) 今月の退会者・逝去者

退会者（正1名） 富田 覚

逝去者（4名：名1，正3）

名誉会員：大森昌衛 (1/3)

正会員：鈴木宇耕 (1/12), 濱田隆士 (1/12), 吉野言生 (2010/11/25)

3) 1月末日会員数

賛 28 名誉 73 正会員 4137 (内訳：正 3913, 院割 200, 学部割 24) 合計 4238
(昨年比 -118)

<会計>

1) 合同大会の会計について、業務委託も含め鉱物科学会担当者と面談し説明した。

(2) 広報部会：広報委員会

・第2回惑星地球フォトコンテスト応募数：約426件(昨年並み)

(3) 学術研究部会：行事委員会 (星)

1) 水戸大会について

- ・茨城大学より正式に共催承諾の回答があった。共催によって大学施設使用料は無料であるが、冷房等のための電気使用料の実費負担がある。
- ・合同大会として、両学会の擦り合わせと具体的な事務処理等の検討については、会計担当者との話し合い以外には、具体的な進展はない。2/5に鉱物科学会のほうで会議があったとのことで、その報告待ち状態。発表申し込み、参加登録などの実際的な面での合意が得られていないので、それらの準備など事務作業的にもストップ状態である。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会 (石渡)

- 1) 「はやぶさ」微粒子分析結果発表関連のJAXAへの要望書とJAXAからの回答をジオフレーション、News誌に掲載。
- 2) 地質用語国際標準対応委員会 (井龍理事)
JIS改正に合わせて検討を開始。
地質時代の日本語名称についても検討中

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会 (小嶋編集委員長)

1) 編集状況報告 (2月9日現在)。

2011年度投稿論文 総数11編 [総説2(和文2), 論説7(和文7), ノート2(和文2)] 口絵2(和文2)

査読中44編 受理済み23編(うち通常号4 特集号19)

- ・117巻2月号：論説2・短報1・ノート1・口絵1(43ページ・校正中)
- ・117巻3月号：特集号「モデル実験で探る地形・地層形成過程のダイナミクス」(世話人：横川美和ほか)(入稿準備中)

2) 短報の廃止と速報の新設の提案(→審議事項：別紙資料)

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会 (井龍編集委員長)

・編集状況の報告

(7) 編集出版部会：企画出版委員会 (担当：山口, 藤林)

- ・地質リーフレット4 「日本列島と地質環境の長期安定性」(1月15日)が刊行された。
- ・「地質リーフレット」としてISSN番号を取得：2185-8543
- ・地質リーフレットの新規企画申請があり、リーフレット企画出版委員会に検討を依頼した。

(8) 社会貢献部会（藤林）

1) 地学教育委員会（中井）

- ・水戸大会での”小さな Earth Scientist のつどい”について

水戸大会準備委員会が企画している県内高校生の「理科発表会」とは、会場は同じにする
が、別個の催しとして実施する方向で検討する。

- ・中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会の審議経過報告（平成 23 年 1 月 31 日）について
教員養成学部以外における中高の教員養成にどのような影響があるのかを注視することとした。

2) 5 月 14 日(土)、地質の日の行事と執行理事会の開催について

5 月 14 日 13 時 30 分～15 時で講演会＋フォトコンテスト表彰

終了後（15 時以降 17 時頃まで）に、執行理事会を開催する。

(9) 地学オリンピック支援委員会（久田）

日本大会はつくば大学も共同主催となる。

今後募金活動を本格化するため、免税等の措置などについても検討中。

文科省から、正式な科学オリンピックとして認められた。

以上